



愛・地球博の瀬戸愛知県館を活用した地上3階、地下1階のあいち海上の森センター。外装に使用しているタイルはワッツビジョンの制作です

これらの活動が評価され、2008年、財団法人日本財団による「市民が選ぶ『CSRプラス大賞』」で、全投票者の10%近い得票を得てグランプリに輝きました。大手企業を差



ワッツビジョン制作の携帯型タイムカプセル「夢たまご」。自分の夢を書いた紙を中に入れます。愛・地球博や瀬戸市内の小学校で無償配布されました



子ども会フェスティバル事業の「ミニせと」は、子どもたちによる、子どもたちのためのまちづくり。企画・運営はジュニアリーダーが担当し、市役所や銀行、警察、議会などを設け、働くことをはじめ、さまざまな社会の仕組みを楽しく学びます



多様な自然体験は、自己肯定感や協調性、積極性、コミュニケーション力、生き抜く力、自立心など、子どものさまざまな資質や能力を育みます

Information  
有限会社ワッツビジョン  
尾張旭市狩宿町4丁目107番地  
TEL 090-4256-3431  
Mail info@clays.co.jp



瀬戸市子ども会連絡協議会  
TEL 090-4256-3431  
Mail yokoi@clays.co.jp



01

アミューズメント(娯楽)ではなく、**アチーブメント(達成感)を提供したい**

02

お金をかけずに遊ぶ方法を教えてください

【巻頭特集】子どもの笑顔あふれる ふるさとに

有限会社ワッツビジョン代表  
瀬戸市子ども会連絡協議会会長

よこい のぶこ  
**横井暢彦さん**

ものづくりは、人づくり  
人づくりは、まちづくり

尾張旭市にある国内でも珍しい手づくりタイルメーカー、有限会社ワッツビジョン。体験活動を通して子どもたちの生きる力を育む、瀬戸市子ども会連絡協議会。その代表と会長を務めるのが横井暢彦さんです。「職場と家庭を分けることなく、地域社会全体で子育てや教育をしたい」という思いから社内外で、さまざまな活動に取り組んでいます。

03

大きい建物を作ろうと思うほど基礎が大切。  
人間も同じ、**子ども時代の体験活動が、その人の基礎になる**

04

人は会社の業績をあげるために働くのではない  
**“幸せになる”ために働くのです。**  
それが結果的に会社の業績につながります



Profile  
**横井 暢彦さん**  
有限会社ワッツビジョン代表、瀬戸市子ども会連絡協議会会長、せと自然体験倶楽部代表、瀬戸キャリア教育推進協議会委員、下品野地域力向上協議会事務局長など教育やまちづくりに関する役を歴任

小学3年生で起業を決意  
モノづくりの道を究める

有限会社ワッツビジョン代表の横井暢彦さんは瀬戸市品野町出身。6人兄弟の次男で、豊かな自然に囲まれて育ちました。家庭は経済的に厳しく、それを理由にいじめを受けた経験から、小学3年生のとき「社長になって、世の中お金をすべてじゃないことを伝えたい」と決意。「経営者になり、いじめのない公平な社会をつくりたい」と子どもながらに考えていました」と話します。

幼いころから建築やモノづくりに興味があり、高校卒業後は地場産業のタイル工場で働き始めました。その後、独学で窯業技術や品質管理、プログラミングを学び、システムエンジニアとしても活躍。20歳で工業特許を取得し、数多くの建築外装材を開発しました。

開発した商品を「そんなものは売れない」と言われ、自ら営業したこともあり。窯業はダメだと言われ始めた時代、窯業に関わるものとしての意地もありました。打たれ強さも私の強みです。岐阜、大阪、兵庫、東京と移り住みましたが、ふるさとへの焼き物を伝えたいという思いから瀬戸市に戻り、平成7年、オーダーメイドのタイルやレンガを製造する有限会社ワッツビジョンを設立したのです。